

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		21年度	22年度	23年度	増減(23-22)
収支状況	受託事業収入	213,394	42,121	37,242	△ 4,879
	自主事業収入	865,984	907,636	790,500	△ 117,136
	補助金収入				0
	運用益収入	369	293	182	△ 111
	その他の経常収入	3,933	608	16,816	16,208
	経常収入 計	1,083,680	950,658	844,740	△ 105,918
	人件費	82,320	90,797	91,181	384
	その他の経常支出(費用)	1,030,390	910,137	1,038,926	128,789
	経常支出(費用) 計	1,112,710	1,000,934	1,130,107	129,173
	経常損益	△ 29,030	△ 50,276	△ 285,367	△ 235,091
	特別利益(経常外収入)	102,598	152,867	0	△ 152,867
	特別損失(経常外支出)	40	18	0	△ 18
	法人税等				0
	当期損益	73,528	102,573	△ 285,367	△ 387,940
	前期繰越利益(損失)	223,356	296,884	399,195	102,311
	当期末処分利益(損失)	73,528	102,311	△ 285,367	△ 387,678
次期繰越利益(損失)	296,884	399,195	113,828	△ 285,367	

項 目		21年度	22年度	23年度	増減(23-22)
財務状況	流動資産	739,780	705,760	531,689	△ 174,071
	固定資産	4,902,766	4,933,904	4,990,062	56,158
	資産 計	5,642,546	5,639,664	5,521,751	△ 117,913
	流動負債	78,046	102,862	379,543	276,681
	うち短期借入金			165,000	165,000
	固定負債	3,961,900	3,831,890	3,722,664	△ 109,226
	うち長期借入金	1,745,768	1,483,172	1,225,775	△ 257,397
	負債 計	4,039,946	3,934,752	4,102,207	167,455
	資本金	1,225,000	1,225,000	1,225,000	0
	資本剰余金	80,716	80,716	80,716	0
	利益剰余金	296,884	399,195	113,828	△ 285,367
	資本 計	1,602,600	1,704,911	1,419,544	△ 285,367

(単位:千円)

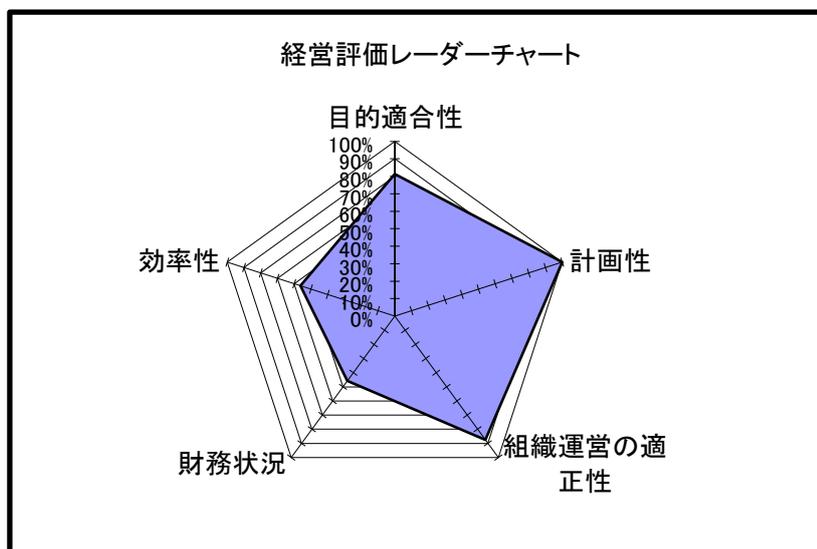
項 目		21年度	22年度	23年度	増減(23-22)
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費(派遣法)補助金				0
	人件費(派遣法以外)補助金				0
	人件費以外の補助金				0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金				0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費(派遣法)委託金	3,145	0		0
	人件費(派遣法以外)委託金	172,487	21,050	18,320	△ 2,730
	人件費以外の委託金				0
	委託金 計	175,632	21,050	18,320	△ 2,730
	県支出金 計	175,632	21,050	18,320	△ 2,730
	県の財政的関与の割合(%)	16.2	2.2	2.2	0
県貸付金残高				0	
県債務負担実際残高	1,745,768	1,483,172	1,225,775	△ 257,397	

【県の財政的関与の内容・目的・金額】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金 (運営費)	
補助金 (事業費)	
委託金	(H21~H23)一般県道富士河口湖富士線冬期除雪業務委託 (H21~H23)国道140号維持管理業務委託
債務負担行為	雁坂トンネル有料道路の建設資金借入に対する債務保証を行うための債務負担行為

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	4	16	13	81.3%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	20	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	14	87.5%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	12	48	22	45.8%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	8	32	18	56.3%
合計		33	132	87	65.9%



【警戒指標】

--

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	設立目的に適合している。
計画性	今後も社会や経済情勢を見通す中で、収支バランスのとれた運営を行なっていくこととする。
組織運営の適正性	適正に運営されている。
財務状況	富士山有料道路については、東日本大震災による観光客の減少による交通量の減少、五合目トイレの改修等で一時的に財政状況が悪化した。 雁坂トンネルについては、通行台数の減少により財政状況は厳しい。
効率性	新たな経営計画を策定し、業務委託の発注方法や管理体制の見直しを行ない、効率的な運営を行なっているが、道路交通の安全を確保する上で、これ以上の人件費の削減は困難。
総合的評価	道路公社は、施設の維持管理が中心であり、利益追求型でないため、社会情勢の変化により通行量が減少し、経営が厳しくなるのもやむを得ない部分がある。



対応策	通行量が著しく減少し、経営が厳しい雁坂トンネル有料道路においては、県外観光客等へのPR活動を積極的に行うとともに、経営計画に基づき適正な維持管理に努め、更なる経費の削減などに努めていく。
-----	---

【法人担当部局の所見】：(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	設立目的に適合している。
計画性	有料道路事業は、国に計画内容を示して許可をうけている。現在、社会情勢の変化により計画時との乖離が生じている。交通量の見直しを含め策定した経営改善計画に基づき経営を進めていきたい。
組織運営の適正性	適正に運営されている。
財務状況	雁坂トンネルについては、通行台数の減少により財務状況が厳しい。
効率性	新たな経営計画を策定し、委託業務の発注方法や管理体制の見直し等、効率的な運営をしている。
総合的評価	道路公社は施設管理が中心であり、利益誘導型の法人ではないが、適切な管理運営をしていくためには、さらなる維持管理費の削減と利用促進策を実施していく必要がある。 また、平成23年度の富士山有料道路については、東日本大震災による観光客の減少に伴う交通量の減少や、五合目トイレ整備に多額の費用を費やしたが、平成24年度は交通量が回復傾向にあり、大きな改修工事も予定していないため順調な運営が見込まれている。

【総合評価】：(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">目的適合性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">計画性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">財務状況</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">効率性</div> </div>
総合的所見	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> A (75%~) </div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> B (60%~75%) </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> C (50%~60%) </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> D (~50%) </div> </div>
※ ランク下の%は得点率の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雁坂トンネル有料道路の交通量が計画を大きく下回っている状況であったことから平成23年度に交通量の見直しを図る経営改善計画を策定し、有料道路期間内の一時的な資金不足に対応するため県からの無利子貸付を受けることとなった。 ・ 平成23年度は、東日本大震災等の影響による富士山有料道路の交通量減少に伴う収入減とトイレの改修による支出の増加で収支が大幅に悪化した。 ・ 安全性の観点から大幅なコスト削減は見込めないが、最終的に事業損失が発生しないために、利用者の増加による安定した料金収入の確保に引き続き取り組む必要がある。



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<p>・ 雁坂トンネル有料道路については、平成23年12月に策定した新たな経営計画に沿って、今後とも適正かつ効率的な運営を進めていく。</p> <p>特に利用促進対策として、引き続き関係機関等と連携を図りながら、キャンペーンの実施やパンフレットの配布等の取り組みを積極的に進め、料金収入の確保に努めていく。</p> <p>また、平成24年度からの電気料金の大幅な値上げなど、経営計画において想定していなかった支出増加要因も見込まれるが、維持管理方法などを更に見直し、維持管理費の削減に努めていく。</p> <p>・ 富士山有料道路については、懸案となっていた多額の費用を要する五合目トイレの改修が完了しており、平成24年度を含め、今後は維持管理有料道路として収支均衡を図った運営を行っていく。</p>
--